

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890200096		
法人名	社会福祉法人 光朔会		
事業所名	グループホームオリンピア篠原		
所在地	兵庫県神戸市灘区篠原本町3丁目2-4		
自己評価作成日	2018年1月10日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成30年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3年目を迎えたオリンピア篠原は「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念のもと、お一人おひとりの「その人らしさ」を大切に、これまで通りの尊厳ある生活を送るお手伝いをさせていただいている。地域住民、居宅介護支援事業所、民生委員等の見学を多く受け入れ、地域に根ざしたホームとなっている。近隣の散歩や美容院、商店街でのお買い物等地域で暮らし、生活することができてきている。スタッフは正職員、パート職員とも各々がスキルアップするための研修が受けられるよう、法人内では、初任者研修・リーダー育成研修・キャリアアップ研修・スウェーデン研修等様々な研修を実施しており、スタッフ各々の成長とケアの向上に繋げている。オリンピア創設から脈々と受け継がれてきた「イエス・キリストの愛と奉仕の精神」を遵守し、これからもより一層の飛躍を目指していく。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に立地する、総合的に福祉施設を運営する法人内のグループホームであり、管理・運営体制が整備されている。入居者尊重の理念が職員に浸透し、これまで通りの尊厳ある暮らしが送れるように、カンファレンスを重ね、きめ細かい個別支援に取り組んでいる。日常的な外出・季節の外出・普段は出かけられないような場所への外出や、入居者と協働して行う食事作りやおやつ作りを継続している。自治会・民生委員等の協力を得て、地域交流・地域貢献も年々深めている。法人の教育・研修体制が整備され、人事考課制度も導入し、事業所間の交流研修の機会も多く、職員の質向上に注力している。家族・かかりつけ医・訪問看護の看護師と連携を密にし、希望に応じて看取り介護も行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生活の主人公は利用者ご本人であり、今まで通りの生活を送るお手伝いをさせて頂くこと」を理念とし、その実現のために「3つの約束」を掲げ、各ユニットに掲示している。また、毎日の朝礼で全職員で唱和することにより、日々のケアの礎とし、共有・実践している。	法人の理念、理念を実践するための「3つの約束」を、ホーム内掲示と朝礼時の唱和で共有を図っている。「オリンピアの思い」の中に、地域密着型サービスの意義、役割を明確にしている。新入職員研修・理事長研修等で定期的に理念について学ぶ機会を持ち、理念の理解と浸透を図っている。各ユニットで理念実践のための年間ビジョンと月間ビジョンを、入居者の意向も採り入れて策定し、毎月のカンファレンスで実践・達成状況を確認している。入居者の意欲向上を図り、出来ることが増えて自信につながるようビジョンの実践に向け取り組んでいる。朝礼時に入居者も理念を唱和し、入居者とも理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治体へ加入している。日々の外出や買い物、地域のお祭りなどの行事に積極的に参加したり、あんしんすこやかセンターとの情報交換により、地域との関わりを深めている。	自治会に加入し、総会、敬老会、災害時のための井戸掘りプロジェクト等に参加し、自治会との関係を深めている。日常的に、散歩・買い物・理美容・喫茶・外食等に、地域の社会資源を活用している。地域のさくら祭り・秋祭り・コンサート等への参加、文化祭・バザー等への作品作りや出展等、地域住民と交流する機会を多く設けている。歌の会・フラダンス等ボランティア、児童館の子供達とのぶどう狩りの機会やこども園の園児の来訪があり、入居者の楽しみとなっている。民生委員・地域住民の見学・相談にも随時対応し、ボランティア養成講座の講師受任等、地域貢献に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員や、近隣の方々の見学はもちろん、「知人から聞いた。」と仰り突然見学に来られた方に対しても、随時見学していただき、介護に関する相談や説明する時間を設けている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の様子が伝わりやすいように写真やDVDを使い、入居者様の日常の様子やイベントの様子を報告している。また、参加者の意見や要望をお聞きし、普段の生活の中に活かせるよう取り組んでいる。	入居者・家族・地域包括支援センター職員・地域代表(民生委員)・知見者(行政書士)等をメンバーとし、2か月に1回開催している。ほぼすべての入居者が参加し自己紹介を行っている。会議では、月刊オリンピア篠原を配布し、写真を見ながら入居者の生活やホームの活動・取り組みについて報告している。参加者から、地域の動向やイベントについての情報提供を受けサービス向上に活かしている。より多くの家族の参加を得るため、書類郵送時に開催案内を発送したり、電話連絡時に案内している。会議の内容は月刊オリンピア篠原に掲載している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは役所に出向き情報交換を行っている。また、神戸市が開催する、集団指導や講演会に積極的に参加し、日常業務に役立てている。運営推進会議へのあんしんすこやかセンター職員の参加を通して、利用者の状況や事業所の取組みを伝え、情報などを得ている。	市への提出書類持参時に、法改正等で市担当者と情報交換を行っている。神戸市が開催する集団指導や講演会に積極的に参加し、日常業務に役立てている。運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加を通して、利用者の状況や事業所の取組みを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の理念を全スタッフが共有するため、研修を実施している。また、玄関やエレベーターには日中鍵をかけず、自由に出入りができるようにしており、心理的な鍵もかけないように取り組んでいる。	重要事項説明書に身体拘束廃止を明示し、契約時に入居者・家族に、事業所の方針を説明している。年間研修計画に沿って、「高齢者虐待・身体拘束廃止」研修を行い、心身ともに拘束を行わないケアについて学んでいる。研修参加者は「研修報告レポート」を作成し、欠席者はレポートと資料回覧により、周知を図っている。また、カンファレンス時にも、不適切ケアについて話し合い、具体的事例の振り返りにつなげている。理事長の講演会で地域に向けても虐待と拘束の廃止を発信している。また、玄関やエレベーターには日中鍵をかけず、閉塞感のない自由な暮らしを支援している。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止を理念の根本とし、研修において定義や関連法、日々のケアについて学んでいる。日々のケアにおいて虐待に繋がりそうなことがないか注意しながら取り組んでいる。	虐待防止についても、拘束廃止と同様の方法で学ぶ機会を確保している。不適切ケアについての研修も実施し、日々のケアで不適切ケアにつながりそうな対応や言葉かけがないか、常にカンファレンス等で話し合う機会を設けている。認知症ケア研修等で職員の資質向上にも努め、職員のストレス等が入居者のケアに影響を与えないよう努めている。入浴時等には身体状況を観察し、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	神戸市主催のコンプライアンス研修による権利擁護の研修を受け、制度の概要、利用の仕方を学び、相談があった場合には速やかに支援ができるように関係機関との関係を作っている。現在成年後見制度を利用している方が2名いる。	管理者が神戸市開催の権利擁護についての研修に参加している。職員には「権利擁護に関する制度の理解と活用」についての研修を実施し学ぶ機会を設けている。成年後見制度を活用している入居者がおられ、後見人への金銭管理書類提供、定期的な状況報告等、活用に向け協力し支援している。今後も制度利用が必要な入居者がおられれば法人の行政書士や地域包括支援センターと連携し、実務経験を活かして、制度利用につなげる仕組みがある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には自宅訪問もしくは見学を兼ねて来所して頂き、契約に関する事について十分に時間をとり説明し、理解・納得して頂いた上で契約をしている。また、解約、改定等の際にも十分に時間を取りご説明させていただいている。	入居希望者に見学を勧め、管理者等が自宅訪問を行って面談している。見学・面談時に契約内容の概略を説明し理解を得よう努めている。契約時には、契約書・重要事項説明書・各種同意書の読み合わせを行い、質疑応答を交えながら丁寧な説明を心がけている。改定時には変更部分を来訪時や電話で説明の上、基本的には書面で同意を得ることとしている。終了時には、法人のバックアップ体制も含めて情報提供し、重要事項説明書の条項に沿って、入居者の意向を尊重した移行が円滑に行えるように支援している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、ご家族懇談会、ご家族来訪時や電話等で意見や要望をお聞きする機会を多く設けている。全職員がすぐに対応できるように口頭での申し送りに加え、連絡ノートでの回覧により申し送っている。	家族来訪時には、近況報告を行い、「月刊オリμπピア篠原」で、日常の様子や行事の様子などを伝えることにより、意見・要望等を表しやすいよう努めている。把握した意見・要望は、申し送りノートで共有し、改善を急ぐ意見等はラインを併用して職員に周知し、迅速な対応に努めている。誕生会・クリスマス等事業所行事では懇親の機会を設けている。家族懇談会には家族の来訪も多く、話しやすい関係づくりに努め意見や要望を引き出せるように取り組んでいる。また、運営推進会議に多くの入居者・家族の参加を支援し、外部者へ意見等を表す機会づくりに努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体として職員の意見やチャレンジを積極的に採用している。職員はホーム長に日常から相談できる形である。リーダー、管理者も、職員をフォローし応援、支援している。	毎月、また、随時にカンファレンスを開催し、管理者が職員の意見・提案を把握するよう努めている。ホーム長も議事録等で、職員の意見を把握するとともに、対応策を職員にフィードバックしている。管理者・職員の意見・提案は、月に1回開催するリーダー会議で理事長・ホーム長にも伝える仕組みがある。人事考課制度の面談機会を活用し、管理者・ホーム長・理事長に個別に意見・要望を表す機会も設けている。コルクボードの設置等、設備面でも職員の意見を採り入れている。スキルアップ等のため職員の異動は行うが、馴染みの関係を大切に最小限にとどめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として自己評価、人事考課という評価制度を導入し、職員一人ひとりの目的や目標を明確にしている。各々のチャレンジは評価に直結するよう制度化し、スウェーデン研修など、やりがいや向上心を持てる取り組みがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験、能力に合わせて、新人研修、リーダー育成研修、海外研修などの「質の高い人材育成」のための研修制度がある。働きながら資格習得を目指す職員も多く、多数の研修により研鑽を積んでいる。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修などの外部研修に職員が参加し、外部との交流やネットワークを作っている。近隣施設の運営推進会議に参加し、お互いの試みや企画を情報交換し共有をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「生活の主人公は利用者ご本人」という理念のもと、入居者様の立場に立って、入居前・入居時にご本人の思いをしっかりとお聴きし、安心して新生活が迎えられるよう配慮している。また、職員間で情報を共有し、信頼関係の構築を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにご家族との面談や見学の場を設け、実際のケアを見ていただき、不安や要望などをお聴きし、把握している。ご家族の思いをしっかりと受け止め、信頼関係の構築の上、サービスの導入を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が置かれている状況を的確に把握し、その時に必要な支援を見極め提供している。また、他のサービスが必要な場合は、法人内で情報共有し、ご家族・ご本人にサービスの説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主人公は入居者様であり、職員は生活のお手伝いをさせていただくという理念のもと、お互いが支え合い、時には入居者様から生活の知恵など多くを教えていただき、お互いが支え合い、共に生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今まで通りに誇りを持った生活を送って頂くという理念のもと、ご家族の協力が必要であることをお伝えし、これまでの生活を教えて頂いている。また、行事等にはご家族の参加、ご協力をいただいている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの人生をしっかり聞かせていただいた上で、日々の外出や美容院、お買い物など入居後も継続して利用していただいている。また、馴染みの方と電話したり、いつでも来所していただけるよう配慮し、入居後も、今までのつながりを大切にしている。	入居時に家族等が記入する「生活歴シート」や職員が作成する「入居時面談情報」をもとに、馴染みの人や場所についての情報の把握に努めている。入居後に把握した情報は、申し送りノートやセンター方式シートに蓄積記録し共有に努めている。地域の商店・理美容店・かかりつけ医・寺社・教会・自宅近隣での知人との再会等、馴染みの場所に同行支援している。友人・教会関係者など馴染みの人の来訪も継続しており、訪問時にはゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。母の日のポストカードのやり取り等手紙や電話での関係継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、お互いが助け合い、支え合えるようお手伝いさせていただいている。入居者様同士で相談し、作りあげていく生活が送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス期間中に培った信頼関係を大切に、サービス利用終了後も、そのご家族の知人のサービスについてや入居についての相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や、表情、少しの変化にも注意し、ご本人の希望や思いを汲み取るよう努めている。また、ご家族や、知人の協力も得て思いを汲み取るようにもしている。それらの情報は職員間で共有し、日々のケアに反映させるようにしている。	入居時や日々に関わりの中で把握した入居者・家族の思いや意向、計画見直し時に家族等から把握した希望等は、職員間で共有し、日々のケア、介護計画に反映するよう努めている。意思の疎通が難しい入居者は、質問の仕方を工夫し、また、表情や反応、家族からの情報を参考に、本人の立場に立った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「今まで通りの生活」を大切にするため、ご本人様(センター方式によるアセスメント)、ご家族様(入居時生活歴シート)から情報収集を行っている。これらを元に、生活スタイルの把握に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、お一人おひとりの生活状況・心身状況など新しい発見、些細な変化も正確に把握できるよう努めている。また、全職員が申し送りノートを活用し情報を共有している。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を確認し、日々の生活の中での様々な情報、主治医の意見も組み込んだカンファレンス、モニタリングを行っている。3ヶ月毎の見直しを行い、現状に即した介護計画をチームで作成している。	基本情報等をもとに、入居者・家族の要望を踏まえアセスメントを行い、初回のサービス計画を作成している。以降は基本的に3ヶ月毎に、家族の意向、かかりつけ医・福祉用具専門員等関係者の意見も採り入れ見直している。職員が計画内容を理解し、どうすれば計画内容に沿ったケアが実施できるか職員で話し合い、独自の「予定表」を作成している。予定表から日々の実施状況を確認して毎月モニタリングを行い、カンファレンス時にサービス計画書評価欄で評価を行っている。モニタリング結果と3か月ごとに行う再アセスメントをもとに、介護計画の見直しにつなげている。関係者等の意見は、カンファレンス議事録に記載している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お一人おひとりの日々の生活の様子を日誌に記入し記録している。その中でも特に必要な事柄は申し送りノートに記録を残し全職員で情報を共有し実践に活かしている。また、1月からはiPadを使用し、より詳しく日誌を作成している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、しっかり話し合いを持ちご本人様にとって生活しやすい環境を整えるようにしている。看取りや重度化に関しても医療との連携を図り要望に応じている。また、住み慣れた地域で生活をしていけるように努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催の敬老のお祝いに参加をしたり、地域のだんじり祭りを楽しむことができている。運営推進会議での交流も含め、散歩や買い物に出た時は近隣の方々と挨拶を交わすといった日常的な交流も持つことができている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人・ご家族の希望に応じて、かかりつけ医を決定し、受診していただけるよう支援している。特に認知症外来や緩和ケア等においてはその方にあった医療機関にかかって頂けるよう、医師宛に情報提供表を書くなど連携をしっかりと取るようにしている。</p>	<p>入居者等の希望に沿って、かかりつけ医での受診継続や協力医療機関の往診を受けられるように支援している。契約時に、通院同行について話し合い、家族等の意向を大切にしている。家族が同行する場合は、文書で情報を提供している。入居者の状況や相談内容、受診結果等は体調記入ファイルの往診記録・通院記録に記載し、特記事項は申し送りノートで共有している。受診結果は、内容に応じて家族に適切に報告している。看護師の来訪を定期的に受け、健康管理や体調の変化の早期発見に努め、職員がいつでも相談できる体制が整備されている。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>定期的に来訪する法人内の看護師に適宜相談等を行い対応をとっている。また個別に訪問看護が入る時には、密に連携をとりその方にとって最も安全安楽なケアが行えるよう、情報共有している。</p>		
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には病院にこれまでのご様子等を情報提供し、情報共有している。また、仲の良いご入居者と一緒にお見舞いへ行くなど、早期退院に繋げている。退院前には、医療機関、ご家族とのカンファレンスの場を持ち必要な対応方法等の最終確認を行い、安全に暮らして頂けるよう努めている。</p>	<p>入院時には、要請された書式や情報提供書で情報提供を行っている。入院中は、色紙等を持参して、仲の良い入居者と一緒に面会に行っている。地域医療連携室等関係者と連携して状況把握に努め、早期に退院できるよう支援している。把握した情報は申し送りノートで共有している。退院時には、カンファレンスがあれば家族と共に参加し、カンファレンス記録を作成して共有を図っている。看護サマリー等で情報提供を受け、速やかに元の生活に戻ることができるよう介護計画の見直しを行っている。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の対応について説明している。その後もその都度状態に合わせて、ご本人・ご家族のご意向を伺うよう随時話し合いを持っている。その上で、必要な医療機関との連携をとり対応し、安楽に過ごして頂けるよう支援を行っている。	契約時に、事業所の重度化や終末期に向けた方針を「指針」をもとに説明し同意を得ている。その後も状態に合わせて、家族等の意向を確認し支援方法を随時話し合っている。かかりつけ医が終末期の判断をした段階でカンファレンスを開催し、かかりつけ医を交えて今後の方針を話し合い、介護計画を見直している。カンファレンス議事録を作成すると共に、看取りの実施状況は、介護記録に記録し、逐次家族に報告している。家族・かかりつけ医・訪問看護の看護師等と連携を密にし、看護師から職員へ不安軽減のための助言を得ながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を定期的実施し、緊急時の連絡・報告体制を全職員が理解している。安全確保を最優先にし、その後の対応は指示の元に行う事の周知を徹底している。判断を誤らないよう、管理者とリーダーは情報共有を行っている。	/	/
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した消防避難訓練を年2回実施し、それぞれの対応の仕方を身につけている。また地域の自治会との連携を図り、災害発生時にはお互いに協力が得られるよう話し合っている。	消防設備点検に合わせて、年2回、昼・夜想定で火災時の訓練を実施している。訓練は、点検業者の協力のもと、入居者も参加して総合訓練を実施している。訓練終了後には「訓練結果報告書」を作成し、訓練に参加出来なかった職員に管理者が説明を行っている。地域の自治会と連携を図り、災害発生時にはお互いに協力が得られるよう話し合っている。水・食料・カセットコンロ等を備蓄している。今後、地域での訓練に参加する計画である。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「誇りを持った暮らしを続けるお手伝い」を実践するため「敬語でお話をする」「尊厳ある生活のお手伝いをする」という約束事を全職員が理解し、徹底している。	理念を実践するための「3つの約束」に「敬語でお話をする」「嘘はつかない」「尊厳ある生活のお手伝いをする」を掲げ、朝礼での唱和・理事長研修・ユニット会議等で共有と理解を深めている。介護計画にも入居者一人ひとりの生活歴や価値観を尊重した支援内容を採り入れ、「尊厳ある生活のお手伝い」に努めている。個人記録等は鍵のかかるロッカーに保管し、職員の守秘義務について誓約書を交わしている。ホームページ・月刊オリンピア篠原・パンフレット・求人情報誌等に掲載する写真について同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の元、入居者様に自己決定していただけるよう「依頼形」でのお声かけを徹底している。外出や家事といった日々の活動も、こちらから提案し、ご本人に選択して頂けるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の元、1日の予定は毎朝話し合っ決めてるようにしている。お一人おひとりの生活のペースに合わせ、希望に添った支援を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類はご本人様に選んでいただけるようお手伝いさせて頂いている。今まで通りの身だしなみを引継ぎ、その人らしい身だしなみを支援している。また美容院では好みのヘアスタイルにしていただけるよう相談させて頂いている。			

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成から食事の準備、片付けまでをご入居者皆様が力を合わせ、料理に取り組んでいる。また、「食事の時間は心が開く時」ということを全職員が理解し、入居者様と一緒に食事をする大切な時間としている。	入居者と相談しながら、週単位でユニットごとに献立を立て、法人の栄養士のチェックを受けて手作りの食事を提供している。食材は、地域の専門店を利用して旬の食材を調達している。その日の入居者の体調に合わせて食事を変更したり、疾患で制限がある場合は、献立や調理方法を工夫して食事の楽しみが継続できるように支援している。行事食や手作りおやつの日を設けたり、喫茶・外食には個別やグループで出かけ、食事を楽しめる機会を種々設けている。買い物・調理・後片付け等に、男性入居者も参加しており、入居者の能力や好みを活かすよう取り組んでいる。職員も自分では食事が取りにくい方のお手伝いをしながら同じ食事をとり、家庭的な雰囲気の中で食事が楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者様と一緒に食事をするこことによって食事、水分量を把握し、好みや生活習慣の見直しを検討している。体調に合わせたものになるようにし、健康面も考慮している。栄養面は法人内の栄養士にアドバイスを求めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、衛生面だけでなく、身だしなみの部分も含め、食後の口腔ケアを実施している。口腔ケア時、口腔内の状態を観察しつつ、これまで通りご本人にして頂くように支援している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄のパターン・習慣を把握しご本人の自尊心に配慮し、極力肌着を使用して頂けるよう工夫している。トイレでの排泄を促し、失敗を減らせるようにケアを行っている。紙パンツ等の使用をできるだけ減らしていく努力をしている。	バインダーに挟んだ記録とiPad入力で、個別の排泄状況を把握し、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。カンファレンスで早めの誘導を話し合い、昼間は全員トイレでの排泄が維持できるように支援している。また、現状に適した排泄用品の検討も行っている。トイレの扉は必ず閉め、排泄状況を報告する時には周囲に留意し、自尊心や羞恥心に配慮しながら支援している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食生活において食事のメニュー、水分量を工夫し予防に努めている。便秘傾向の方は特に、水分摂取が十分に行われるよう注意している。その他、散歩や体操等の運動や入浴でも便秘が解消されるように努めている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人おひとりの習慣や希望に応じて入浴日は固定せず、入っていただいている。入浴中は安全に配慮しながら、その方がリラックスし満足を得られるように、ゆったりと入っていただけるよう支援している。	週2回以上の入浴を基本としているが、入浴日は固定せず、入浴チェック表(iPad入力)で、入居者の体調・希望・習慣に合わせた支援を行っている。異性介助を嫌がる入居者には同性で対応し、負担感等で入浴を嫌がる入居者には、無理強いせず、声かけの工夫等で入浴できるよう努めている。脱衣所にパーテーションを設置する等、プライバシーや羞恥心への配慮を行っている。毎回更湯にし、好みの入浴剤の使用、母の日にはバラ湯、季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯等の機会を設け、入浴を楽しめるよう支援している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの体調や、生活リズムを大切に、ホームとしての就寝・起床時間は設けていない。夜間眠りにくい時には眠ることにこだわらず、ご本人のペースで休んでいただけるようにスタッフが一緒に過ごすこともある。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時は毎回処方内容を確認し、変化があった際は内容を記入し、最新のお薬リストで全職員が確認できるようにしている。薬の内容や禁止物、可能性のある副作用も伝え、安全な服薬支援に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりのこれまでの生活歴を伺い、ご入居者が中心となって生活を送って頂けるよう、家事をはじめ様々な事柄を役割分担し担っていただいている。皆様が自然と助け合い生活を送られている。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の外出は「出かけた。」と仰る時に、その都度外出して頂けるように努めている。また日々の会話の中で出てきた「行きたい場所・馴染みの場所・思い出の場所等」にはご家族に相談、ご協力を得て、思い出に残る外出ができるよう支援している。	日常的に、入居者の希望に沿って、散歩・買い物・外食・喫茶などに出かける機会を数多く設けている。花見・ぶどう狩りなど季節が感じられる外出、コンサート・ブータン展・書道展・美術館・映画鑑賞等、個別・ユニットを超えたグループ・ユニット単位での外出など、様々な機会を設けている。車イス等重度の人も、車イス対応車等を利用して外出機会の均等に向け支援している。また、有馬温泉・淡路島旅行等、普段は行けないような場所へも、本人の希望を把握し、家族と協力しながら出かけられるように支援している。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまで通りの生活をしていただくために、お買い物の際には入居者様に直接支払いをして頂くこともある。またご自身のお財布でお買い物をして頂くこともあり、それぞれの希望や能力に合わせて対応している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、個人の携帯電話やホームの固定電話で直接お話をしている。年賀状やお手紙のやり取りができるよう支援している。お手紙への意識を高め、希望時はお手紙を随時書いて頂くようにしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットを一つの家としてとらえ、共用スペースには季節感のある花や写真を飾っている。また、皆様が自由に過ごして頂けるように、状況に合わせて配置換えを行い、ご入居者同士の会話が弾むよう、廊下にイスを置いたり、アルバムを置いたりしている。	桃の花等季節感のある生花や季節ごとの飾りつけを行っているが、過度な装飾は行わず、家庭的な雰囲気を損なわないように配慮している。テーブル席・ソファ席の配置を随時変更しながら、入居者が、思い思いの場所で自由に過ごせるように工夫している。また、入居者同士の会話が弾むよう、廊下にイスや、アルバムを設置している。広いアイランドキッチンが設置され、入居者が調理や後片付け等に参加し役割を持って過ごせる環境を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから見えにくい場所にソファを置かせて頂いたり、気の合う方同士がそれぞれの居室を行き来し、お茶を飲みながらゆっくりとお話をして頂けるよう工夫している。リビングにはカラオケを用意し、歌のお好きな方同士でカラオケをされている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで通りの生活を送って頂くため、馴染のある家具をもって来て頂いたり、お好みの家具や物品を使用して頂けるよう、ご家族と相談している。居心地よく安心して暮らせる環境になるようお手伝いしている。	居室はゆったりと広く、明るく清潔感がある。洗面台・クローゼット・ベッド等はホームが準備しているが、家族の協力を得て、仏壇・テレビ・家族の写真・タンス等、使い慣れた家具や大切にしているものが持ち込まれ、落ち着いて過ごせる生活空間となっている。絵や木彫りの作品、思い出の写真等も飾られ、その人らしさの表れた環境づくりが行われている。また、気の合う入居者同士がそれぞれの居室を行き来し、お茶を飲みながらゆっくりと会話を楽しめるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの状況に応じてお料理等の家事に限らず、趣味や得意な活動ができるように提案したり、促したりし、お一人おひとりが楽しみながらかつ自立した日々を送って頂けるように努めている。		